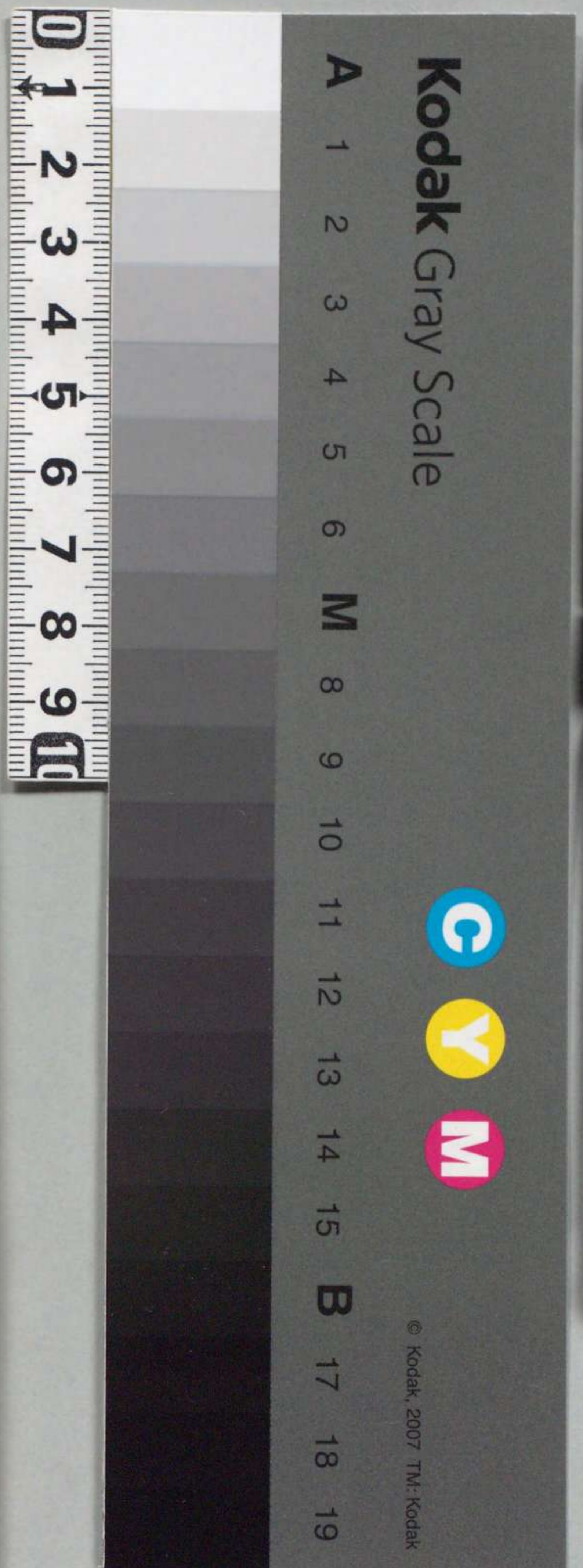


0

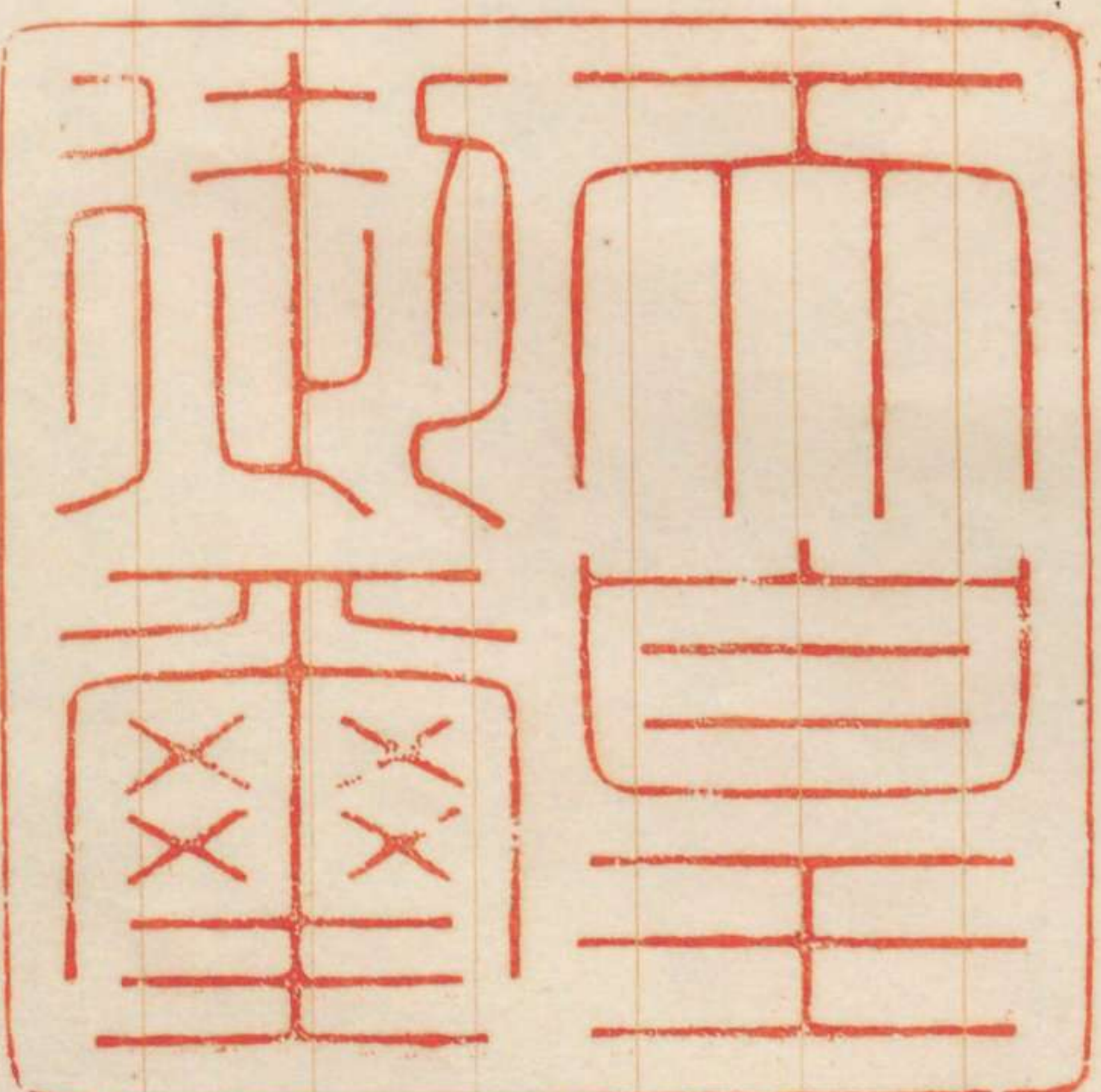
長崎第三号

21



朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル治安警察法
ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

睦仁



明治三十三年三月九日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西郷從道

法律第三十六號

治安警察法

第一條 政事ニ関スル結社ノ主幹者(支社ニ在リテハ支社ノ主幹者)ハ結社組織ノ日ヨリ三日以内ニ社名、社則、事務所及具ノ主幹者ノ氏名ヲ其ノ事務所所在地ノ管轄警察官署ニ届出ツヘシ其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第二條 政事ニ関シ公衆ヲ會同スル集

會ヲ開カムトスル者ハ發起人ヲ定ム
ハシ
發起人ハ到達スルキ時間ヲ除キ開會
三時間以前ニ集會ノ場所年月日時ヲ
會場所在地ノ管轄警察官署ニ届出ツ
ハシ
届出ノ時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會
セス若ハ三時間以上中断スルトキハ
届出ハ具ノ效ヲ失フ
法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選

舉準備ノ爲ニ選舉權ヲ行フヘキ者及
被選舉權ヲ有スル者ニ限り會同スル
所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間
ハ本條第二項ノ届出ヲ要セス
第三條 公事ニ関スル結社又ハ集會ニ
シテ政事ニ関セサルモノト雖安寧秩
序ヲ保持スル爲届出ヲ必要トスルモ
ノアルトキハ命令ヲ以テ第一條又ハ
第二條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得
第四條 屋外ニ於テ公眾ヲ會同シ若ハ

多衆運動セムトスルトキハ發起人ヨ
リ十二時間以前ニ會同スヘキ場所年
月日時及具ノ通過スヘキ路線ヲ管轄
警察官署ニ届出ツヘシ但シ祭葬講社
學生生徒ノ體育運動具ノ他慣例ノ許
ス所ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條 左ニ掲クル者ハ政事上ノ結社

ニ加入スルコトヲ得ス

- 一 現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人

二 警察官

三 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師

四 官立公立私立學校ノ教員學生生徒

五 女子

六 未成年者

七 公權剝奪及停止中ノ者

女子及未成年者ハ公衆ヲ會同スル政
談集會ニ會同シ若ハ其ノ發起人タル
コトヲ得ス

公権剝奪及停止中ノ者ハ公衆ヲ會同
スル政談集會ノ發起人タルコトヲ得
ス

第六條 日本臣民ニ非サル者ハ政事上
ノ結社ニ加入シ又ハ公衆ヲ會同スル
政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス
第七條 結社ハ法令ヲ以テ組織シタル
議會ノ議員ニ對シテ具ノ發言表決ニ
付議會外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ
規定ヲ設クルコトヲ得ス

第八條 安寧秩序ヲ保持スル為必要ナ
ル場合ニ於テハ警察官ハ屋外ノ集會
又ハ多衆ノ運動若ハ群集ヲ制限禁止
若ハ解散シ又ハ屋内ノ集會ヲ解散ス
ルコトヲ得
結社ニシテ前項ニ該當スルトキハ内
務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得此ノ
場合ニ於テ違法處分ニ由リ權利ヲ傷
害セラレタリトスル者ハ行政裁判所
ニ出訴スルコトヲ得

第九條 集會ニ於テハ重罪輕罪ノ豫審ニ関スル事項ヲ公判ニ付セサル以前ニ講談論議シ又ハ傍聴ヲ禁シタル訴訟ニ関スル事項ヲ講談論議スルコトヲ得ス

集會ニ於テハ犯罪ヲ煽動若ハ曲庇シ又ハ犯罪人若ハ刑事被告人ヲ賞恤若ハ救護シ又ハ刑事被告人ヲ陷害スルノ講談論議ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 集會ニ於ケル講談論議ニシテ

前條ノ規定ニ違背シ其ノ他安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムル場合ニ於テハ警察官ハ其ノ人ノ講談論議ヲ中止スルコトヲ得

第十一條 結社集會又ハ多衆運動ニ関シ警察官ノ尋問アリタルトキハ主幹者會長發起人ニ於テ又ハ警察官ノ主ナル社員若ハ主ナル會同者ト認ムル者ニ於テ之ニ答フヘシ
警察官署ハ制服ヲ著シタル警察官ヲ

派遣ニ政事ニ関シ公衆ヲ會同スル集
會ニ臨監セシムルコトヲ得其ノ集會
ニシテ政事ニ関セサルモノト雖安寧
秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルト
キ亦同シ此ノ場合ニハ發起人ニ於テ
又ハ警察官ノ主タル會同者ト認ムル
者ニ於テ警察官ノ求ムル席ヲ供スヘ
シ

第十二條 集會又ハ多衆運動ノ場合ニ
於テ故ラニ喧擾シ又ハ狂暴ニ渉ル者

アルトキハ之ヲ制止シ具ノ
命ニ従ハハ現場ヨリ退去セ
シムルコトヲ得



第十三條 集會及多衆ノ運動ニ於テハ
我器又ハ兇器ヲ攜帶スルコトヲ得ヌ
但シ制規ニ依リ我器ヲ攜帶スル者ハ
此ノ限ニ在ラス

第十四條 秘密ノ結社ハ之ヲ禁ス

第十五條 法令ヲ以テ組織シタル議會
ノ議員議事準備ノ爲ニ相團結スルモ

派遣シ政事ニ関シ公衆ヲ會同スル集會ニ臨監セシムルコトヲ得其ノ集會ニシテ政事ニ関セサルモノト雖安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキ亦同シ此ノ場合ニハ發起人ニ於テ又ハ警察官ノタル會同者ト認ムル者ニ於テ警察シ

第十二條 多衆運動ノ場合ニ於テ故ラハ在暴ニ涉ル者



アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ従ハサルトキハ現場ヨリ退去セシムルコトヲ得

第十三條 集會及多衆ノ運動ニ於テハ我器又ハ兇器ヲ攜帶スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ我器ヲ攜帶スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 秘密ノ結社ハ之ヲ禁ス

第十五條 法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員議事準備ノ爲ニ相團結スルモ

ノニ對シテハ第一條及第五條ヲ適用
セス

第十六條 街頭具ノ他公衆ノ自由ニ交
通スルコトヲ得ル場所ニ於テ文書、圖
畫、詩歌ノ揭示、頒布、朗讀若ハ放吟又ハ
言語形容具ノ他ノ作為ヲ爲シ具ノ状
況安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スル
ノ虞アリト認ムルトキハ警察官ニ於
テ禁止ヲ命スルコトヲ得

第十七條 左ノ各號ノ目的ヲ以テ他人

ニ對シテ暴行、脅迫シ若ハ公然誹毀
シ又ハ第二號ノ目的ヲ以テ他人ヲ誘
惑若ハ煽動スルコトヲ得ス

- 一 勞務ノ條件又ハ報酬ニ関シ協同
ノ行動ヲ爲スヘキ團結ニ加入セ
シメ又ハ其ノ加入ヲ妨クルコト
- 二 同盟解雇若ハ同盟罷業ヲ遂行ス
ルカ爲使用者ヲシテ勞務者ヲ解
雇セシメ若ハ勞務ニ從事スルノ
申込ヲ拒絶セシメ又ハ勞務者ヲ

シテ勞務ヲ停廢セシメ若ハ勞務
者トシテ雇傭スルノ申込ヲ拒絕
セシムルコト

三 勞務ノ條件又ハ報酬ニ關シ相手
方ノ承諾ヲ強ユルコト

耕作ノ目的ニ出ツル土地貸貸借ノ條
件ニ關シ承諾ヲ強ユルカ爲相手方ニ
對シ暴行、脅迫シ若ハ公然誹毀スル
コトヲ得ス

第十八條 行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持

スル爲必要ト認ムルトキハ戒器、爆發
物又ハ戒器ヲ仕込ミタル物件ノ攜帶
ヲ禁スルコトヲ得

第十九條 第一條ニ違背シタル者ハ三
十圓以下ノ罰金ニ處シ第一條ノ届出
ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ五十圓
以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第二條第一項又ハ第二項ニ
違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ
處シ第二項ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テ

セサル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス
第二十一條 第四條ニ違背シタル者ハ
二十圓以下ノ罰金ニ處シ第四條ノ屈
出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ三十
圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 第五條又ハ第六條ニ違背
シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第五條又ハ第六條ニ違背シ入社セシ
メタル者亦同シ

第二十三條 第八條第一項ノ制限若ハ

禁止ノ命ニ違背シ又ハ解散ヲ命セラ
レタル後仍解散セサル者ハ二月以下
ノ輕禁錮又ハ三十圓以下ノ罰金ニ處
ス

第八條第二項ノ禁止ノ命ニ違背シタ
ル者ハ六月以下ノ輕禁錮又ハ百圓以
下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第九條ニ違背シ又ハ第十
條ノ中止ノ命ニ違背シタル者ハ三月
以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上五十圓以

下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 第十一條第一項ノ尋問ニ
答ヘス者ハ答フルモ實ヲ以テセズ又
ハ第二項ノ場合ニ於テ警察官ノ臨監
ヲ拒ミ若ハ其ノ求ムル席ヲ供セサル
者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第十二條ニ依リ退去ヲ命
セラレタル後仍退去セサル者ハ一月
以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以下ノ罰金
ニ處ス

第二十七條 第十三條ニ違背シタル者
ハ三月以下ノ輕禁錮又ハ五十圓以下
ノ罰金ニ處ス

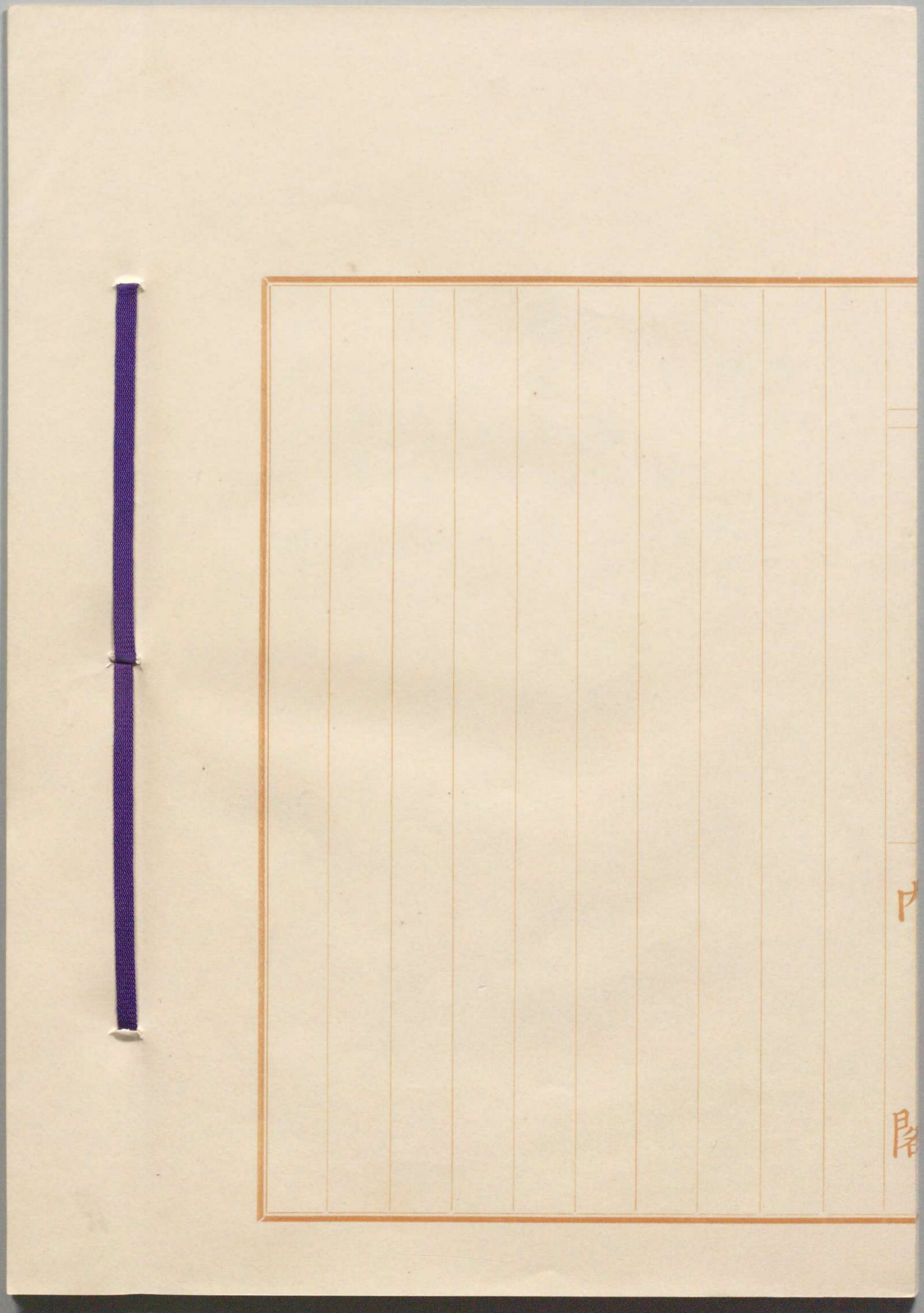
第二十八條 秘密ノ結社ヲ組織シ又ハ
秘密ノ結社ニ加入シタル者ハ六月以
上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二十九條 第十六條ノ禁止ノ命ニ違
背シタル者ハ一月以下ノ輕禁錮又ハ
三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第十七條ニ違背シタル者ハ

一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三
圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス使
用者ノ同盟解雇又ハ勞務者ノ同盟罷
業ニ加盟セサル者ニ對シテ暴行脅迫
シ若ハ公然誹毀スル者亦同シ
第三十一條 第十八條ノ禁ヲ犯シタル
者ハ六月以下ノ重禁錮ニ處ス
第三十二條 本法ニ関スル公訴ノ時効
ハ六箇月トス
第三十三條 集會及政社法ハ之ヲ廢止

ス



内

階